

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号  
特許第5192075号  
(P5192075)

(45) 発行日 平成25年5月8日(2013.5.8)

(24) 登録日 平成25年2月8日(2013.2.8)

(51) Int.Cl.  
A 4 4 C 25/00 (2006.01)

F I  
A 4 4 C 25/00 B

請求項の数 4 (全 8 頁)

|               |                              |           |                 |
|---------------|------------------------------|-----------|-----------------|
| (21) 出願番号     | 特願2011-505299 (P2011-505299) | (73) 特許権者 | 391060535       |
| (86) (22) 出願日 | 平成22年1月29日 (2010.1.29)       |           | 株式会社ミキモト        |
| (86) 国際出願番号   | PCT/JP2010/051254            |           | 東京都中央区銀座4丁目5番5号 |
| (87) 国際公開番号   | W02011/092846                | (74) 代理人  | 100117787       |
| (87) 国際公開日    | 平成23年8月4日 (2011.8.4)         |           | 弁理士 勝沼 宏仁       |
| 審査請求日         | 平成23年2月7日 (2011.2.7)         | (74) 代理人  | 100091982       |
|               |                              |           | 弁理士 永井 浩之       |
|               |                              | (74) 代理人  | 100107537       |
|               |                              |           | 弁理士 磯貝 克臣       |
|               |                              | (74) 代理人  | 100105795       |
|               |                              |           | 弁理士 名塚 聡        |
|               |                              | (74) 代理人  | 100096895       |
|               |                              |           | 弁理士 岡田 淳平       |
|               |                              | (74) 代理人  | 100106655       |
|               |                              |           | 弁理士 森 秀行        |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 装身具用クラスプ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

球状の宝飾体をその内部に抱持可能なクラスプであって、  
前記宝飾体を抱持したときに前記宝飾体の一侧の半球部分の外側表面に沿って延びる第1の環状体および他側の半球部分の外側表面に沿って延びる第2の環状体と、  
前記第1および第2の環状体が前記宝飾体を抱持した閉鎖状態と前記宝飾体を取り出し可能な開放状態との間で相対揺動できるように、前記第1および第2の環状体の基端部同士を接続する支軸と、  
前記第1および第2の環状体が閉鎖状態にあるときに前記第1および第2の環状体の揺動端同士を係脱自在に係止する係止手段と、を備え、  
前記第1および第2の環状体は、閉鎖状態で互いに隣接する一对のクラスプのうち、一方のクラスプの基端部が他方のクラスプの内部を通過して延びるとともに他方のクラスプの基端部が一方のクラスプの内部を通過して延びることができるように、その基端部の形状が構成されていることを特徴とする装身具用クラスプ。

【請求項 2】

前記第1および第2の環状体は、その基端部の幅が狭められて直線状に延びるとともに、その中間部および揺動端部が円形を呈するように延びていることを特徴とする請求項1に記載した装身具用クラスプ。

【請求項 3】

前記第1および第2の環状体は、平面上に展開したときに涙滴状の形を呈することを特

徴とする請求項 2 に記載した装身具用クラスプ。

【請求項 4】

前記第 1 および第 2 の環状体のいずれか一方に、紐状に延びる前記宝飾体の列の端部を接続するための接続手段が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載した装身具用クラスプ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、装身具用クラスプに関し、より詳しくは、例えば真珠ネックレスの両端にそれぞれ設けた 2 つのクラスプが、それぞれ真珠を抱持する状態と互いに係合する状態とを  
10  
取ることができるようにして、外観の意匠性およびユーザの利便性を高める技術に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、真珠ネックレスのなかには、真珠を抱持可能なクラスプ（留め具）をその両端に備えたタイプのものがある。

このタイプの真珠ネックレスにおいては、紐状に並ぶ一連の真珠のいずれか 1 つを一端のクラスプが抱持し、かつ残りの真珠のいずれか 1 つを他端のクラスプが抱持することにより、この真珠ネックレスの長さを調節し、あるいは首に掛けたときの形態を変化させる  
20  
ことができるようになっている（例えば、下記特許文献 1 を参照）。

【0003】

また、真珠を抱持するタイプのクラスプのなかには、2 つのクラスプを互いに連結することにより、首に掛けた真珠ネックレスの形を様々に変化させることができるようにしたものがある（例えば、下記特許文献 2，3 を参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】 実公平 4-40484 号公報（第 7 図～第 9 図）

【特許文献 2】 実公昭 63-10736 号公報

【特許文献 3】 特開 2007-275398 号公報  
30

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ところが、上記特許文献 1 に記載されているクラスプは、真珠ネックレスの両端にそれぞれ設けられている 2 つのクラスプを互いに連結できない構造となっている。

これにより、その第 9 図に描かれているように、真珠ネックレスを最も長く延びる状態にセットすると、2 つのクラスプの間で紐状に並ぶ一連の真珠の列が二重に並ぶこととなり、外観の意匠性を向上させることができない。

【0006】

また、上記特許文献 2，3 に記載されているクラスプは、いずれも 2 つのクラスプを止め輪で接続する構造であり、外観の意匠性が劣るばかりでなく、止め輪の脱着が容易ではなくユーザの利便性に劣る。  
40

【0007】

そこで本発明の目的は、上述した従来技術が有する問題点を解消し、球状の宝飾体を抱持する状態と、隣接するクラスプ同士が互いに係合する状態とを取ることができるようにして、外観の意匠性に優れるとともにユーザの利便性を向上させた装身具用クラスプを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記の課題を解決する本発明は、  
50

球状の宝飾体をその内部に抱持可能なクラスプであって、

前記宝飾体を抱持したときに前記宝飾体の一侧の半球部分の外側表面に沿って延びる第1の環状体および他側の半球部分の外側表面に沿って延びる第2の環状体と、

前記第1および第2の環状体が前記宝飾体を抱持した閉鎖状態と前記宝飾体を取り出し可能な開放状態との間で相対揺動できるように、前記第1および第2の環状体の基端部同士を接続する支軸と、

前記第1および第2の環状体が閉鎖状態にあるときに前記第1および第2の環状体の揺動端同士を係脱自在に係止する係止手段と、を備え、

前記第1および第2の環状体は、閉鎖状態で互いに隣接する一对のクラスプのうち、一方のクラスプの基端部が他方のクラスプの内部を通過して延びるとともに他方のクラスプの基端部が一方のクラスプの内部を通過して延びることができるように、その基端部の形状が構成されていることを特徴とする。

10

#### 【0009】

すなわち、本発明の装身具用クラスプは、例えば真珠ネックレスの両端にそれぞれ設けることができる。

これにより、紐状に並ぶ一連の真珠のいずれか1つを一端のクラスプが抱持し、かつ残りの真珠のいずれか1つを他端のクラスプが抱持することにより、この真珠ネックレスの長さを調節し、あるいは紐状に延びる一連の真珠の列を2つのクラスプの間で二重に配置することができる。

さらに、本発明の装身具用クラスプは、止め輪を用いることなく2つのクラスプ同士を互いに組み合わせて接続できるようになっている。

20

これにより、互いに組み合わせた2つのクラスプが新規な意匠を構成してその外観の意匠性に優れるばかりでなく、ユーザが2つのクラスプ同士を容易に組み合わせあるいは取り外すことができその利便性を高めることができる。

#### 【0010】

さらに、第1および第2の環状体は、その基端部の幅が狭められて直線状に延びるとともに、その中間部および揺動端部が円形を呈するように構成することができる。

#### 【0011】

また、第1および第2の環状体は、平面上に展開したときに涙滴状の形を呈するように構成することができる。

30

#### 【0012】

なお、第1および第2の環状体の少なくともいずれか一方に、紐状に延びる宝飾体の列の端部を接続するための接続手段を設けることができる。

#### 【発明の効果】

#### 【0013】

したがって、本発明によれば、外観の意匠性に優れるとともにユーザの利便性を向上させた装身具用クラスプを提供することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0014】

【図1】本発明の装身具用クラスプの一実施形態を示す6面図。

40

【図2】図1に示したクラスプの開閉動作を示す図。

【図3】図1に示したクラスプを平面上に展開した状態を示す図。

【図4】図1に示したクラスプの要部を破断して示す側面図。

【図5】図1に示したクラスプ同士を開放して互いに組み合わせた状態を示す図。

【図6】図1に示したクラスプ同士を閉鎖して互いに組み合わせて状態を示す図。

【図7】図1に示したクラスプを開放して真珠を受け入れる状態を示す図。

【図8】図1に示したクラスプを閉鎖してその内部に真珠を抱持した状態を示す図。

#### 【発明を実施するための形態】

#### 【0015】

以下、図1～図8を参照し、本発明の装身具用クラスプの一実施形態について詳細に説

50

明する。

【0016】

図1～図4に示したように、本実施形態のクラスプ10は、第1の環状体1と第2の環状体2とを、ヒンジ部3の支軸3aによって相対揺動自在に接続した構造となっている。

また、第1の環状体1の揺動端にはリング4が設けられ、図5～図8に示したように、紐状に延びる一連の真珠Sの列の端部を金具（図示せず）によって接続できるようになっている。

【0017】

さらに、第2の環状体2の揺動端には係止手段5が設けられ、第1の環状体1の揺動端に係合して、このクラスプ10を閉鎖状態に保持できるようになっている。

この係止手段5は、図4に示したように、第2の環状体2の揺動端部に設けた外向きの突起5aおよび内向きの突起5bと、第1の環状体1の内周面に形成された凹部1dとを有している。

これにより、第2の環状体2の揺動端部を第1の環状体1の揺動端部に押し付けると、内向きの突起5bが凹部1dに入り込むため、クラスプ10は閉鎖状態に保持される。

これに対して、ユーザが一方の手の指でリング4を保持しつつ、他方の手の指で外向きの突起5aを外側に押動すると、クラスプ10を開放状態とすることができる。

【0018】

ところで、第1および第2の環状体1, 2は、図3に示したように、平面上に展開したときに真円ではなく涙滴に近い形状を呈するようになっている。

言い換えると、第1および第2の環状体1, 2の基端部1a, 2aは、その全体的な幅がW1に狭められて直線状に延びている。

これに対して、第1および第2の環状体1, 2の中間部1b, 2bおよび揺動端部1c, 2cは、その全体的な幅がW2に拡げられてほぼ円形に延びている。

【0019】

これにより、本実施形態のクラスプ10においては、図5に示したように、共に開放状態にある一対のクラスプ10A, 10Bを、その基端部同士の相対角度を90度ずらした状態で互いに接近させることができる。

そして、図6に示したように、一対のクラスプ10A, 10Bを閉鎖状態にすると、一方のクラスプ10Aの基端部が他方のクラスプ10Bの内部を通過して延びるとともに、他方のクラスプ10Bの基端部一方のクラスプ10Aの内部を通過して延びるように組み合わせることができる。

【0020】

すなわち、本実施形態のクラスプ10は、紐状に延びる一連の真珠Sの列の両端にそれぞれ取り付けた2つのクラスプ10A, 10Bを、互いに組み合わせて相互に連結することができる構造となっている。

そして、互いに組み合わせた2つのクラスプ10A, 10Bは、図6に示したように、湾曲して延びる合計4つの環状体1, 2が互いに絡み合って複雑な外観を呈する。

これにより、上記特許文献2, 3に開示されているような2つのクラスプを止め輪によって連結するものとは異なり、本実施形態のクラスプ10は、その外観の意匠性を大幅に高めることができる。

特に、第1および第2の環状体1, 2の色彩をプラチナ色、シルバー色あるいはゴールド色等とすることにより、紐状に延びる一連の真珠Sの色彩と相俟って、高級感に溢れる新規な装身具を提供することができる。

【0021】

さらに、本実施形態のクラスプ10は、図7および図8に示したように、真珠ネックレスを構成している真珠Sのうちの1つの真珠をその内部に抱持することができる。

これにより、紐状に並ぶ一連の真珠のいずれか1つを一端のクラスプ10Aが抱持し、かつ残りの真珠のいずれか1つを他端のクラスプ10Bが抱持することにより、この真珠ネックレスの長さを調節し、かつ2つのクラスプ10A, 10Bの間で紐状に延びる一連

10

20

30

40

50

の真珠の列が二重に延びるように配置することができる。

【0022】

さらに、本実施形態のクラスプ10は、図8に示したように、その内部に真珠Sを抱持したときに、この真珠Sの一侧の半球部分の外側表面に沿って第1の環状体1が湾曲して延びるとともに、他側の半球部分の外側表面に沿って第2の環状体2が湾曲して延びる構造となっている。

これにより、球形の真珠Sと2つの環状体1、2とが互いに絡み合って複雑な外観を呈するから、従来の真珠ネックレス用クラスプとは異なり、その外観の意匠性を大幅に高めることができる。

【0023】

10

以上、本発明の装身具用クラスプの一実施形態について詳しく説明したが、本発明は上述した実施形態によって限定されるものではなく、種々の変更が可能であることは言うまでもない。

例えば、上述した実施形態においては、図3に示したよう、クラスプ10を構成する第1および第2の環状体1、2は、平面上に展開したときにほぼ涙滴状となる形状を有している。

これに対して、第1および第2の環状体1、2は、2つのクラスプ10A、10Bを互いに組み合わせて連結することができる限りにおいてその形状を変更することもできる。

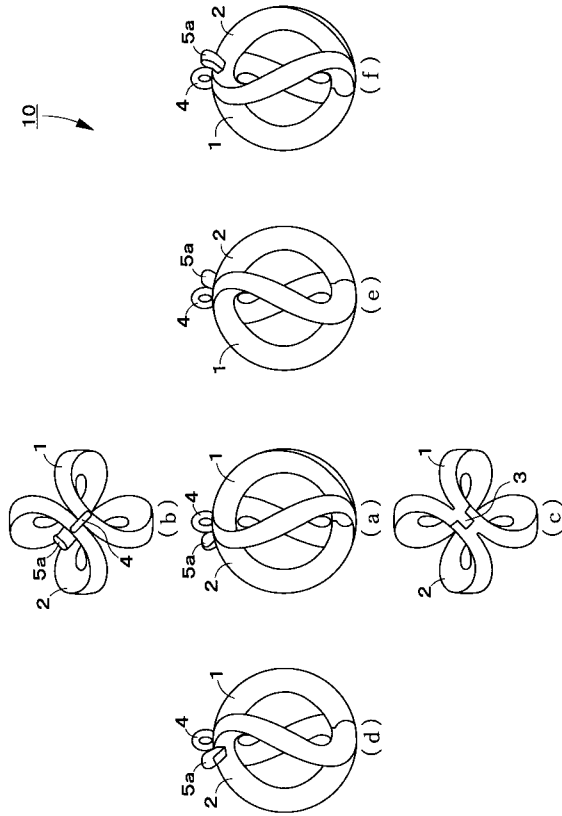
【符号の説明】

【0024】

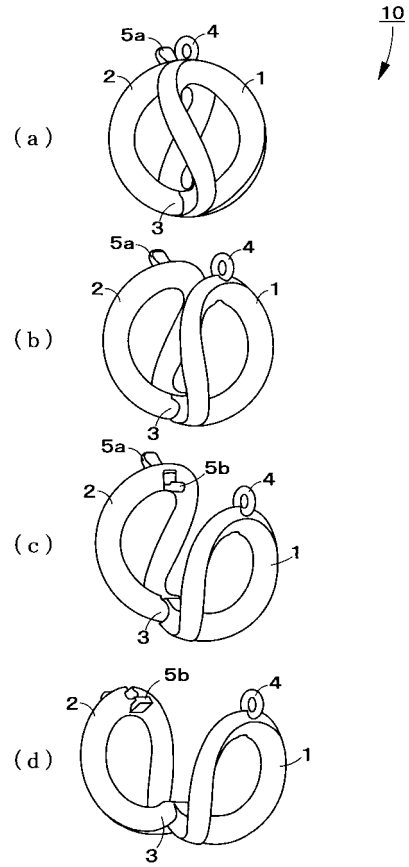
20

- S 真珠
- 1 第1の環状体
- 2 第2の環状体
- 3 ヒンジ部
- 4 リング
- 5 係止手段
- 10 一実施形態のクラスプ

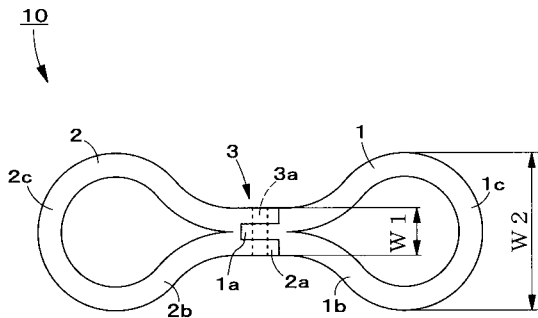
【図 1】



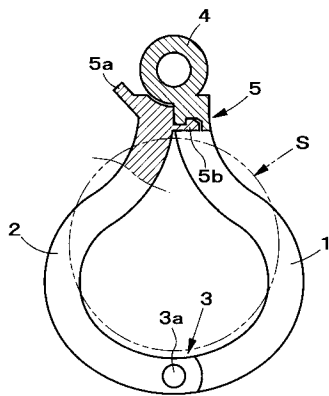
【図 2】



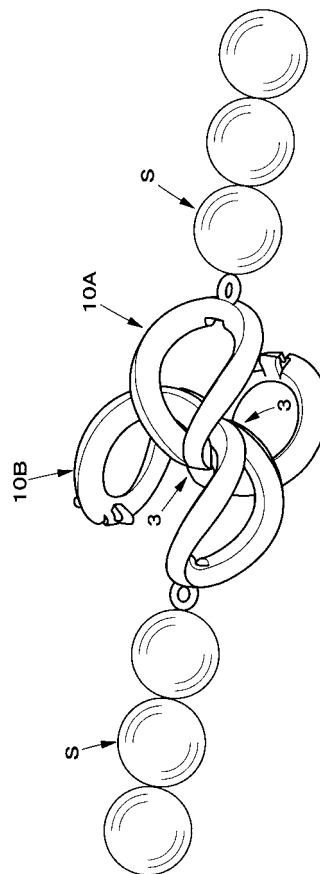
【図 3】



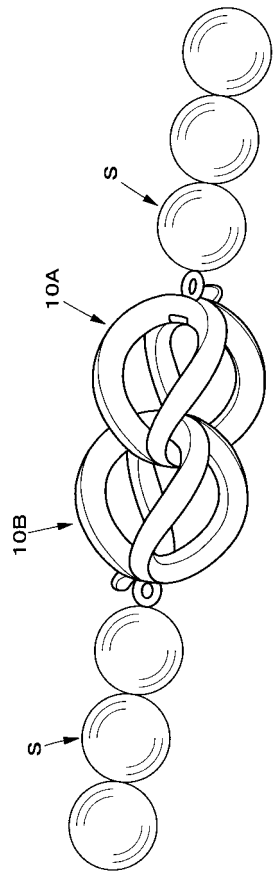
【図 4】



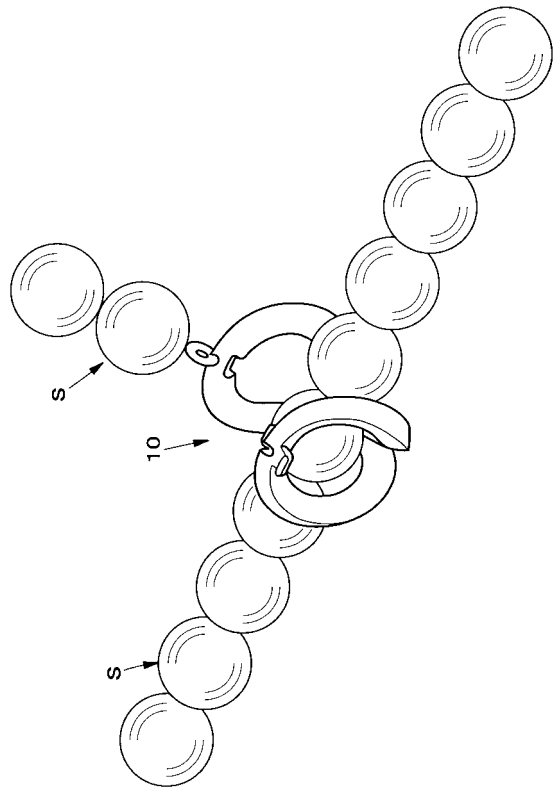
【図 5】



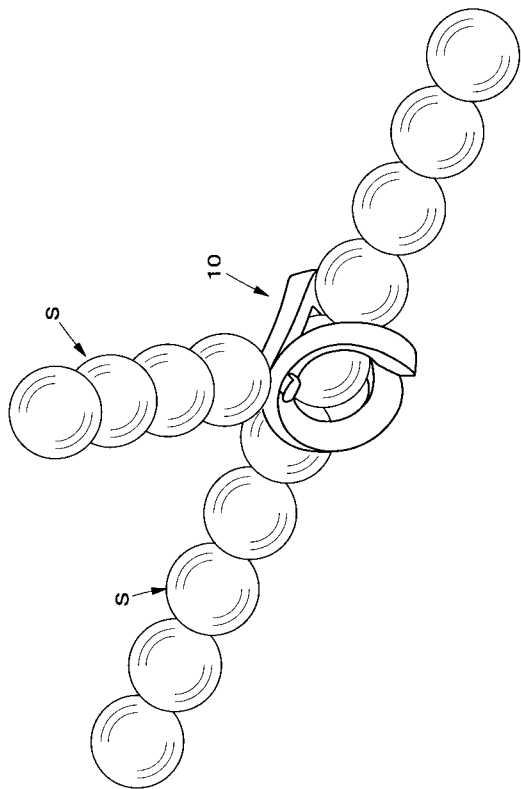
【図 6】



【図 7】



【図 8】



---

フロントページの続き

(74)代理人 100127465

弁理士 堀田 幸裕

(72)発明者 竹 内 由紀子

東京都中央区銀座四丁目5番5号 株式会社ミキモト内

審査官 鈴木 誠

(56)参考文献 特開昭60-207606 (JP, A)

特開平9-299117 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A44C 25/00